

2016年1月6日

## 2016年社長年頭挨拶(要旨)

明けましておめでとうございます。

今年(2016年度)を最終年度とする中期経営計画、すなわち16中計の最終年になります。つまりこれまで取り組んできた成果を摘み取る年となります。16中計のスタートの時にお願いしておりますように、それぞれの事業において、「数字だけでなく、あるべき姿を描き、その実現に向けて、やるべきことを着実に実行する」ことを、年の初めにあたってもう一度確認し、グループ一丸となって確実に成果に結び付くよう取り組んでください。

16中計の目標達成や当社グループのさらなる成長を目指し、企業活動において最も重要な品質・納期・コストといったことへの取り組みを着実に進めていっていただきたいと思っております。今年(申年)ですが「猿も木から落ちる」のことわざのように、これまでミスがなかった部門においても何が起こるかわかりません。どこかに見落としがちななどを十分に再確認し、事故やトラブルのない1年になるようくれぐれもお願いたします。

昨年秋、ラグビーの日本代表の活躍が注目されました。他のスポーツでは、エースなどといった個人がクローズアップされることがありますが、ラグビーではこうしたヒーローすなわち英雄は作らないとのこと。もちろんそれぞれの役割はありますが、全員で一丸となってチーム力を発揮することが最も大切だということではないでしょうか。こうした考え方は、企業活動においても通じると思います。一部の専門家に任すのではなく、職場全体で情報を共有し、誤りや問題がないか監視の目を光らせながら、一体感をもってチーム力を発揮して、さらに高い目標にチャレンジしてほしいと思っております。

代表取締役社長 玉村 和己